

大分教育事務所訪問②-61 (計134)

大分市立春日町小学校に学ぶ2
学校経営から学ぶ

本校の今年度の重点は、「心がホッとするあたたかい学校、春日町小学校～また、あした 学校に来るのが楽しみ!～」をテーマとして、考える子(確かな学力の定着・向上)、素直な子(お互いを認め合える学校・学級づくり)、頑張る子(最後まで頑張ることのできる体力づくり)と、目指す子ども像から重点目標を定めています。そして、各主要主任を中心に、教職員が実践する取組指標とそれによって子どもがどのように成長したかの達成状況・課題を明確にし、今後の取組に活かすような検証・改善サイクルが効果的に行われています。特に注目すべきことは、教務主任が全体を管理することで、それぞれの活動がつながるようになったり、さらに教頭先生が「教頭通信」等でその取組が、何のために、どのような資質・能力をつけるために実践するか等の理念や目的を確認したりすることで、学校全体としての実践へとつながっていることです。

今後は、協議の際に確認した「課題を発見して解決する力」のように、学校をあげて育成を目指す(教科横断的な)資質・能力を、より明確にされてみてはいかがでしょうか。このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることができます。そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながると期待されます。

※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 pp47-53 2教科等横断的な視点に立った資質・能力
授業から学ぶ

1年3組算数では、ポッキーの長さを比べる方法を考えさせる場面でした。子ども達は、自分が考えた「方法」を発言しますが、先生はなかなか理解しようとせず、「なぜ?」「どうして?」「じゃあこれでいいの?」と、その理由を問い返したり説明の矛盾点を指摘したりします。そして、子ども達の発言をつないだり、教室に掲示している話型の「だってね・・・」を使用しながら説明する子どもをほめたりしながら、全ての子ども達に、直接比較で大切な「端を同じ方向に揃え、真っ直ぐに伸ばす」ことを理解させた見事な内容でした。

4年3組算数の指導案の本時のねらいは「追求対象、着眼点、到達点」が明確に示されており、さらに授業では、いきなり課題を示すのではなく、前時のような表のきまりから式をつくることを押さえながら、課題を共有していました。

本校は、毎時間の授業において「振り返り」においては、じ：自分 と：友達 こ：これから の視点で子ども達に考えさせています。今後は教師が考えた「振り返り」と子どもが実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善がより推進されると思われました。



NO.591 2021年12月 大分市立春日町小学校

か 考える子

長いのはAかBか、それとも同じか? 考えたい課題は子ども達を熱くさせる。



NO.592 2021年12月 大分市立春日町小学校

す すなおな子

しっかりと聞くときや、自分で考えるときは、教室から子ども達の声が消える。

ウ 問題発見・解決能力



NO.593 2021年12月 大分市立春日町小学校

が がんばる子

みんなが聴いてくれるから、不安が消えて自然と手があがる。